

令和3年度 基本活動にあたり

昨年は、コロナウイルスに始まり、コロナウイルスに追われた年でした。そして本年もその状況が続く中でのスタートとなり、通学講座、セミナーは、オンライン講座に切替わり、事務局のスタッフはテレワーク勤務の頻度を高め、理事会などの会議は基本オンラインでの開催になるなど、様々な制約が今も余儀なくされています。コロナ禍が1年を経過し、これらの運用の要領が分かってきましたが、今だからこそ、それ以前に当たり前のように行ってきたことの中に、非常に大事なことがあったことに気づかされました。

それは特に、人と人とのコミュニケーションです。オンラインでのコミュニケーションでは、マイクとカメラを用いた聴覚と視覚のみのコミュニケーションとなります。単に情報を伝えるのみであればそれで十分ですが、我々はそれだけではなく、五感の全てを用いて様々な情報を取り入れ、それを総合してコミュニケーションを取っています。また、そこからは「場の雰囲気を読む」「相手を慮る」などの共感を創り出しており、オンラインによるコミュニケーションでは、どうしても共感を創り出すことが難しく、改めてコミュニケーションの大事さに気づかされたということです。このことは教育の現場でも言えることではないでしょうか。

最近は、「ポストコロナ時代」という言葉がよく用いられます。それはリモート機能を用いた新たなスタイルでのコミュニケーションでいいと思われがちですが、これが常態でいいというのはやはり間違いであります。基本的に我々は、本来のコミュニケーションが最大限発揮できることが教育の前提条件であると考えています。だからこそ、コロナやどんな未曾有の事態になろうとも教育の前提条件は揺らぐことのない絶対条件でなければならず、そのためにも本来のコミュニケーションが発揮できる仕組みを、時代の先を見据え、柔軟な思考と行動力をもってスピーディーに創り出していくことが求められるのではないかと考えます。

この様な環境の中、令和3年度の本会は、次の3つのキーワードを軸に、成長戦略を描き、我が国を代表するペット教育団体として、力強くペット教育業界を牽引していきたいと思います。1つ目が「多様化する学習スタイルへの取組み」、2つ目は「実践知教育とグローバル教育の実施」、3つ目が「資格取得者が活躍できるための組織創り」です。この3つのキーワードを実現するために本会は、柔軟性と強靭性を兼ね備え、新しい事へのリスクを恐れない株式会社 SAE マーケティングワンを執行部隊として実現してまいります。

昨年は「新型コロナウイルスの年」として歴史に残る年になりましたが、その混乱の中でも本会は、株式会社 SAE マーケティングワンを介し、トリマー派遣の事業買収を実現しました。このように、不透明な環境下でも、リスクを十分に精査しながら将来に向けて手を打つことが大切です。また、他団体、企業に先んじて飼い主向け教育の強化を進めたように、これからも一歩先を行く協会として、世の中の構造や経済環境の変化をチャンスと捉え、先手をとって果敢に前進する、その積み重ねがやがて協会を次のステージに導いていくものだと思っております。

最後に、これまで支えてくださっている加盟校・法人会員様、賛助会員様、取扱事業者会員様、そして個人会員様へ心より感謝申し上げますと同時に、本年度も皆様と共に進化を積み重ねる年にしたいと切に願います。そして、1年後に振り返った時、コロナ禍の中でも真の業界トップとして皆様と共に躍進した年と胸を張って言えるよう邁進して参ることをここに誓います。

一般社団法人 全日本動物専門教育協会
理事長 大橋 教正